全日中「北海道大会」第1分科会「教育課程」

①研究題

「カリキュラム・マネジメント」の推進

②テーマ

資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの構築

③発表者

　京都府京都市立下京中学校長　山田　敦

1　はじめに

　「この授業、何の役に立つの？」一人の生徒の授業中のつぶやきに衝撃を受け、本校では、これまでの活動を見直し、キャリア教育を中心に据えた教育活動を続けている。思考ツール等を活用したアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）の研究実践の後、３年前からは、学習指導要領の改訂にあたり、教育課程全体を再考し、効果的かつ効率的な活動に向けカリキュラム・マネジメントの研究に散り組んでいる。

２　研究の概要

（１）７つの力の育成

　校是「～志きらめく～Art Science Toughness」

Artとは豊かな感性・表現力・創造力を、scienceとは論理的に真理を追究し知性あふれる姿を、Toughnessとは社会のため自身にの夢に向かって果敢に挑戦できる姿を意味している。

７つの力と学習指導要領に示された３つの柱とダブルスタンダードにならぬように、以下のように関係を明確にしている。



（２）授業担当のクロス持ち

（３）コンテンツベースによるカルキュラムマネージメント

　各教科間の学習内容を連携させる

（４）コンピデンシーベースによるカリキュラム・マネジメント

　教科の授業で育成した力を総合的な学習の時間活用・発揮させる

３成果と課題

クロス持ちなどの取組によって、①複数の教員の経験や知識が組み合わさりより良い授業づくりができる、②教科部会が活性化される、③授業計画や評価のチェック機能が強化される、④学年の枠を越えた共通理解が進み組織的な指導が行える、⑤３年間を見通した授業づくりができる、などの成果があった。

　また、コンテンツやコンピテンシーを意識し、教科間の関連や育成した能力をどのように発揮させるか明確にした単元配列表を作成することで、教員だけでなく、生徒自身も資質・能力が身についたことを実感している。

４　講評　京都市立洛北中学校 長谷川正己

　校是は、京都の伝統工芸、芸能など、京都の過去・現在・未来を表している。地域をよく分析した取組であった。７つの力が伸びているのは明らかであり、その実感が教職員と生徒で共有されている。成果をだすためにしかけられたカリキュラム・マネージメントと言える。

報告者　森田匠（ふじみ野市立花の木中学校）